

平成 23 年度 調査・研究報告書（概要）  
「インテリア環境評価システムの構築とその評価に関する実践的研究」

平成 23 年 3 月  
インテリア環境評価・研究会

## 1. 調査・研究の目的

現在、緊急性が求められている地球規模の課題に環境問題がある。日本でもさまざまな分野で多くの対策や試みを実施されている。しかし、この問題を本当に解決するためには、私たち一人ひとりが環境問題に向けそれぞれのライフスタイルを変革し、実行する段階にきている。すでに建築分野では、環境評価手法として「CASBEE（建築物総合環境評価システム）」が開発され、その成果をあげている。しかし、インテリア空間は単に建築物の内部空間というだけではなく、そこで展開される人々の生活や活動、即ちライフスタイルを含めた総合的な判別・評価をすることが必要である。また、それについては日々生活者に直接対応し、適切なインテリア空間の実現に携わる専門家や関連業界関係者が積極的にその役割を担うことが期待される。

本研究では、生活・活動の場としてのインテリア空間を対象とした新たな環境評価の視点から、その評価手法を構築し、より良い生活環境の確保と環境負荷低減社会の実現に貢献することを目的とする。

## 2. 調査・研究の方針

### (1) 環境評価システムの構築（平成 23 年度）

インテリア空間における人々の住まい方、ライフスタイルを含めた新たな環境評価システムを構築する。

### (2) システムの実行（平成 24 年度以降）

インテリア関連職能 7 団体による実際のインテリア空間での環境評価を実施する。

### (3) システムの検証（平成 25 年度以降）

この環境評価による実行効果や波及・影響度等の数量的把握とその評価・検証する。

## 3. インテリアの環境に関する現行制度・仕組みの調査

### (1) 環境に関する現行制度・仕組みについて

現行の環境対策に関わる制度・仕組みの多くは、日々の人々の生活や活動に直接関わりがある。まず、空間の用途として「総合」「住宅」「商業施設」「オフィス」「その他」の 5 つの軸に分類し、各制度や仕組みを管轄する団体により「国際系」「建築系」「産業系」「環境系」「自治体系」「民間系」の 6 つに分類した。これらからインテリアに関する要素を抽出しその関係性を整理し、インテリア空間の環境評価基準の基礎を組み立てる。

### (2) 住宅におけるインテリアの環境に関する制度・仕組みの整理

インテリアはそこで人々が生活し活動するという基本的な条件は共通だが、空間用途により要求される環境条件は様々である。まず基本的な条件が多く含まれる「住宅」を対象にインテリアの環境に関する現行の制度・仕組みの整理を行い、各制度や仕組みの着目しているポイントや評価方法の違いが明るみになった。インテリアの専門家であっても、これらの制度や仕組みをすべて理解しているとは考えにくいと、一般の生活者にも分かりやすく伝えるための新たなインテリアの環境評価の仕組みが必要であると考えられる。

### (3) 海外の環境評価に関する制度・仕組みの整理

海外においても建物の環境評価に関するさまざまな制度・仕組みが構築されている。そこで、各国の制度をピックアップし、主な制度の特徴をまとめた。今後、評価の仕組みを構築するうえでの参考にする。

## 4. インテリアの環境に関する主要な資格制度の調査

現在、環境に関する資格は数多く存在する。そこで、本仕組みの評価を実施する専門家の育成のための基礎調査として現存資格の特徴を整理した。数多くの資格の中から、インテリアの環境に関係すると考えられる主要な資格制度をピックアップし、受験資格や試験内容、特徴などをまとめた。実務に関連する専門的な資格から、一般生活者でも取得可能な環境知識を図る資格まで、さまざまな資格制度が存在することがわかった。これらの資格と連携できる部分があるかどうかについても、今度の検討が必要である。

## 5. インテリアの環境評価方法の検討

### (1) 評価方法の検討

インテリア空間を評価するためには、空間そのものを評価するだけでなく、そこで行われる生活・活動まで含めたトータルの評価が重要である。そこで、評価は基本的に 2 段階（①第 1 評価：計画者（プロ）が行う自主評

価、②第2評価：施主・使い手が行う実態評価）で行うことを想定する。計画・施工時の評価を行うだけでなく、その効果を確認できる評価の仕組みを構築する。

### (2) 評価要素の検討

インテリア空間とは、人がそこで生活し活動する領域である。そこで、評価要素は「人：M」を中心とし、それを取り巻く6要素（①インテリアに関わるハード(モノ)系3要素/スペース：S・エレメント：E1・エネルギー：En、②生活・活動に関わるソフト系3要素/ライフ：L・タイム：T・コスト：C）が挙げられる。

### (3) 評価指標の検討

各評価要素について、基本的には現行の制度・仕組みを有効活用しながら評価することを試みる。現行の制度・仕組みでは評価しきれない要素については、新たな評価基準を策定する。各評価要素について、包括的もしくは部分的に評価することができる現行の制度・仕組みを推奨すると、かなり広範囲の要素を評価できることがわかり、各制度等との相乗効果も期待できる。このように、現行の制度・仕組みを横断的に評価できる仕組みを基盤としたうえで、足りない評価基準の構築を行う。

## 6. 専門家に対するアンケート調査

### (1) 調査概要

インテリアの環境評価の方法とその構成要素をもとに、具体的な評価手法に対する問題点と、実際の運用面における問題点や課題について、自由記述によるアンケート調査を実施した。（調査時期：2012年3月、調査対象：インテリアに関わる専門家11名）

### (2) 調査結果の分析

まず、インテリア業界における「環境」意識については、一概に評価できない、意識の高い分野もある、まだ意識の低い分野である等さまざまな意見が集まった。評価要素については、「人」を中心とすることについての同意や人の意識や感覚についての盛り込み方、各要素の評価方法についての課題、試行の必要性等の意見が集まった。評価方法については、人の意識や感覚の評価方法の課題や既存評価の取り入れ方等に対する意見が集まった。評価の実施・運用については、「I：計画者（プロ）が行う自主評価」は、評価方法についての課題、評価基準の課題、評価者の意識改革の必要性などの意見があり、「II：施主・使い手が行う実態評価」は、理解しやすさ・分かりやすさの必要性、段階的な評価の検討の必要性等の意見があった。最後に、評価の仕組みについては、広報や分かりやすい解説の必要性、体制の確立に対する要望などの意見が集まった。

## 7. 今後の展望と課題

インテリア空間の多彩な要素に関係する環境評価の制度・仕組みは現状数多く存在するが、それらを横断的な視点で見るとは難しい。また、インテリア空間は、人がそこで暮らし、生活を営む上で最も身近な領域であり、暮らし方や生活習慣、環境意識などが持続可能型・低炭素社会の実現に大きな役割を果たす。そこで、環境問題解決にあたって取り組まなくてはならないことは、人々のライフスタイルまで踏み込んだ「インテリア・環境評価」の仕組みを構築し、それを普及することである。その際、現状数多く存在する制度・仕組みを上手く活用しながら新たな仕組みを構築することが重要である。今後は、インテリアの環境評価の詳細基準をまとめ、具体的な評価システムの実施・運用を目指す。実際にこの評価システムを普及させるためには、その担い手になるインテリアの専門家と連動しながら、実践的な仕組みの構築を目指すことが必要である。また、一方で一般生活者に分かりやすい内容にすることも重要な課題である。これらの課題は、インテリア領域の専門家や関連職能諸団体等が結束して取り組むことが不可欠である。そして、その実現により、インテリア専門家の社会的な信頼感や信用性が高まり、業界の活性化や発展につながることを期待される。

## 8. 共同調査・研究者

代表：加藤力（宝塚大学大学院教授／日本インテリア学会・副会長）

副代表：栗山正也（KDアトリエ代表／日本インテリア学会・理事）・奥平与人（前文化女子大学教授／日本商環境設計家協会・副理事長）

奥田忠彦（インテリア設計士協会・専務理事）・柿沼整三（ZO設計室室長／東京インテリアプランナー協会）・酒井正人（SAKAI DESIGN NETWORK代表／日本インテリアデザイナー協会・理事）・霜野隆（株式会社レスト代表／東京インテリアプランナー協会・副会長）・所村利男（インテリア産業協会・専務理事）・白石光昭（千葉工業大学准教授／日本インテリア学会・理事）・疋田友一（京都光華女子大学短期学部講師／日本インテリア設計士協会・会長）・村口峯子（駒沢女子大学教授／日本インテリアプランナー協会・評議委員）・小原誠（日本インテリア学会）・金子悦輝（エコビルド実行委員会・理事）・茂木弥生子（駒沢女子大学講師）